

## 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 北九州市立藤木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 北九州市立藤木 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っていたが、漢字を読む力や表現の工夫をとらえる力は、全国平均と同程度の力が育っていた。</li> <li>漢字を書く力や文の構成を理解する力が不十分であるので、言葉や文の基礎的な力を育成する必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	新聞のコラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く問題や主語と述語を捉える問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均を下回っていたが、要旨や表現の工夫を書くことは、よくできていた。</li> <li>目的や意図に応じた適切なものを選択する問題に課題がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の要旨をまとめて書く問題は、全国平均より正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く問題は、無解答率が高く、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っていたが、立体の辺や面の位置関係はよく理解できていた。</li> <li>小数の減法の問題の誤答率が高く、数の仕組みの理解を徹底し、計算練習に取り組む必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	直方体の見取り図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ問題は、全国平均より正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさを求める問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っていたが、応用問題に対しても粘り強く取り組みことができるようになってきた。計算領域の考える力が高まってきている。</li> <li>図形の性質の理解や求積の仕方の理解が不十分であり、応用ができていなかった。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数を四捨五入しておよその数にして表し、計算する問題や割り引き後の値段の求め方を書く問題は、全国平均より正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ問題や、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く問題は、正答率が低かった。	

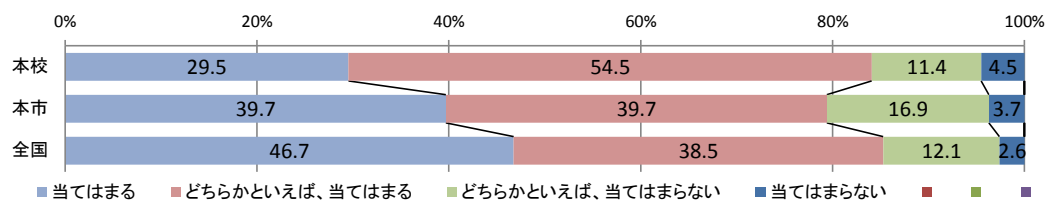
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率を下回っていたが、実験・観察の仕方などについては、よく理解できている内容があった。</li> <li>実験器具の名称を覚えるなどの基礎的な理解を高めるとともに、実験・観察結果を考察する力を高める必要がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	星座の動きをとらえるための記録方法やメスシリンダーの使い方を答える問題は、全国平均より正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	メダカの雌雄の見分け方やメスシリンダー顕微鏡の名称を書く問題、観察した星座や星の動きを選ぶ問題は、正答率が低かった。	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

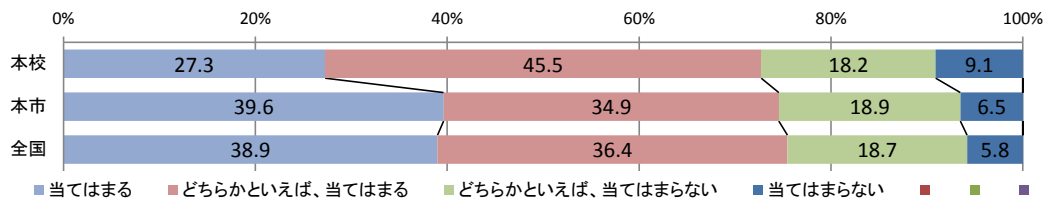
39

授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



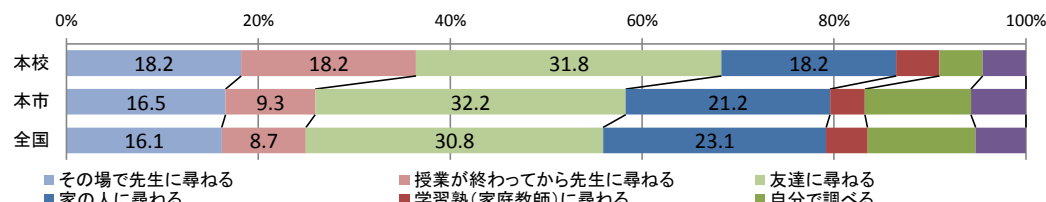
42

授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



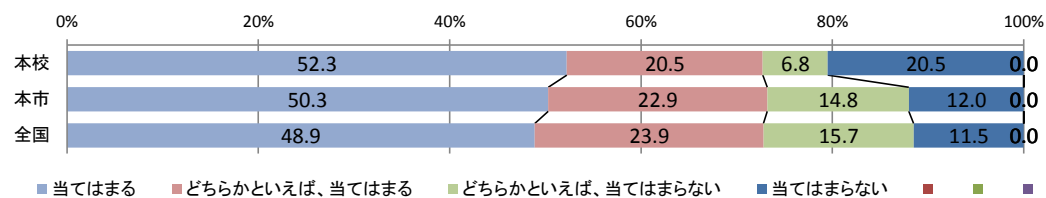
47

授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。

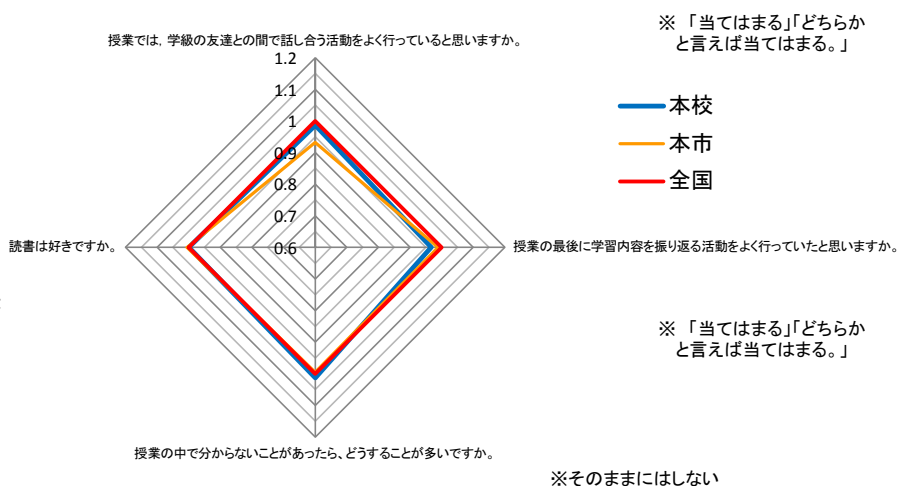


51

読書は好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

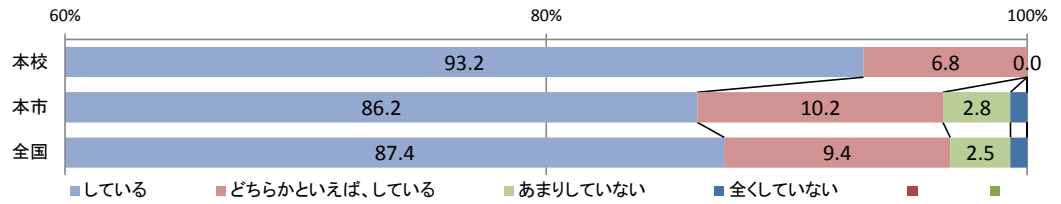
- ・話し合う活動を積極的に学習に取り入れることで、児童の学習意欲の高まりがみられるようになった。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると感じている児童が全国平均よりやや少なかった。これからは、より学習の振り返りに力を入れることで、学習内容の理解の定着を図っていく必要がある。
- ・授業で分からないときは、その場で質問するという児童が多く、児童の学習意欲が高いことが分かる。また、その場で質問できる学習環境を維持することが大切である。
- ・読書が好きという児童が少ない。文章の内容理解が苦手であることとのつながりが大きいと考えられる。読書に親しむことのできる環境を整えていくとともに、話のまとまりを意識し、内容を理解しながら読むような指導が必要である。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

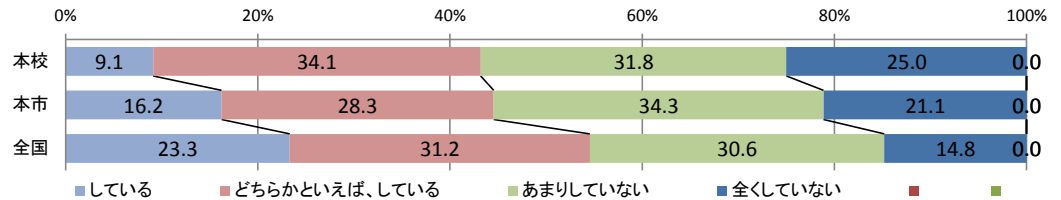
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

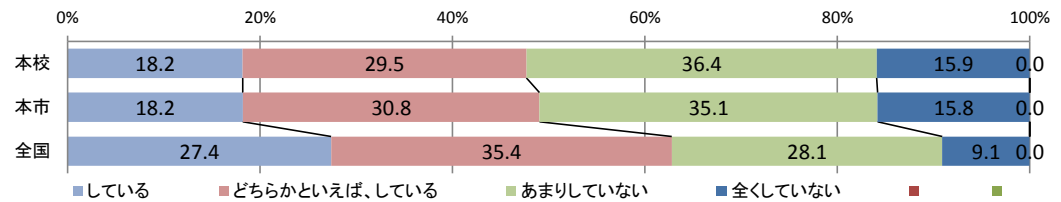
21
家で、学校の宿題をしていますか。



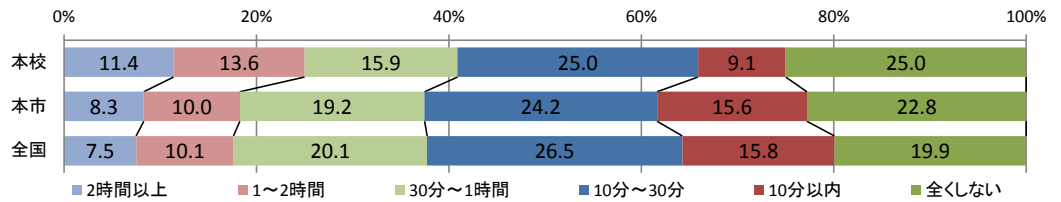
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



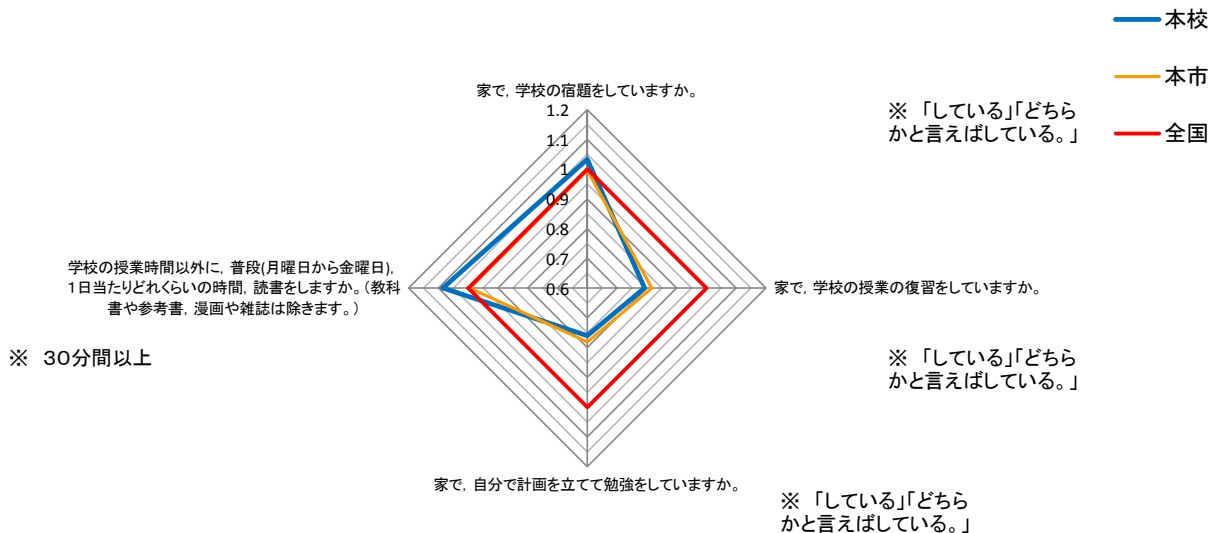
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

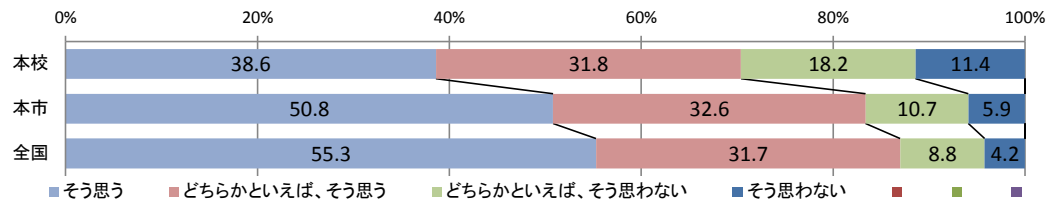
・学校の宿題をしている児童は多いが、学校の授業の復習をしている児童が少ない。また、自分で計画を立てて勉強している児童は全国平均よりも多いが、あまりしていない・していない児童が半数以上おり、主体的に家庭学習に取り組む習慣が身に付いていないことが分かる。

・2時間以上読書をする児童が多い反面、全くしない児童も多く、読書タイムなどの取組を発展させていく必要がある。

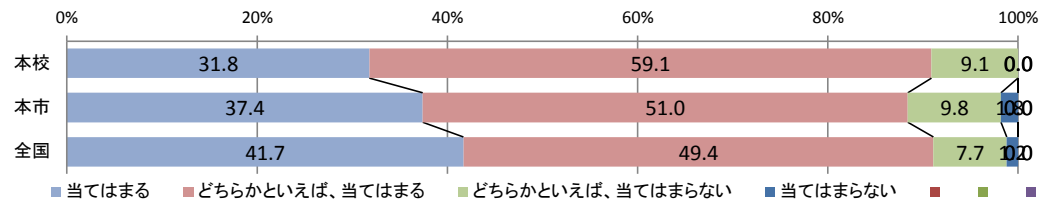
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

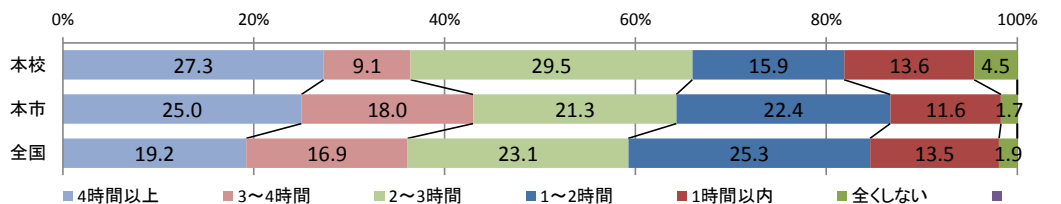
24
学校に行くのは楽しいと思いますか。



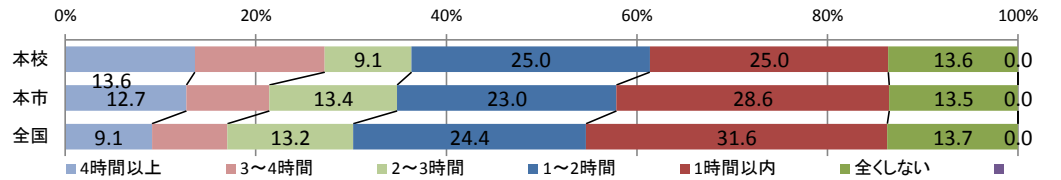
32
学校のきまり[規則]を守っていますか。



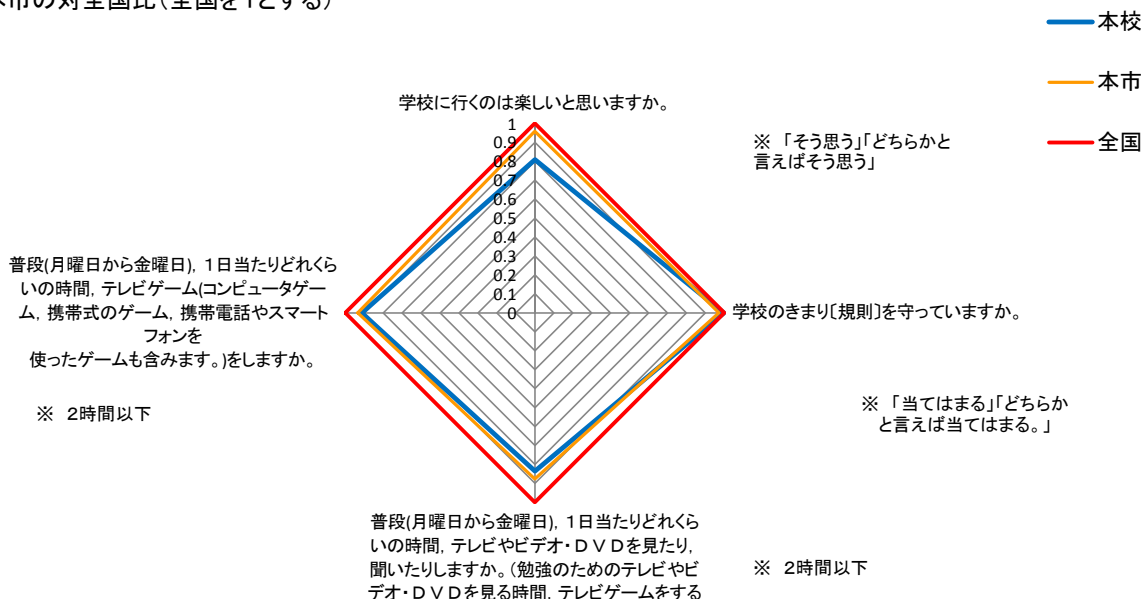
10
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



11
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・ほとんどの児童が学校のきまりを守って学校生活を送っており、学校に行くのが楽しいと答えている。落ち着いた学校生活を送ることができている。  
 ・一日に3時間以上テレビ等にふれている児童が60%を超えている。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・朝の学習の音読(火曜日)・視写(水曜日)・漢字練習(金曜日)を継続することで、基礎的な学力の定着及び向上を図る。  
・朝自習の読書だけでなく、児童同士で本を紹介し合うなどの取り組みを行う。また、図書委員会を中心として、読書を推進する行事を行う。  
・各時間毎にめあて、まとめを板書し(児童にはノートに書かせ)、1時間の学習の目的を意識しながら学習に取り組むようにさせる。また、授業の終わりに学習内容をしっかり振り返る時間を持ち、1時間毎の学習内容を確実に理解させる授業を行う。  
・児童が自分の考えを発表したり意見を交流し合ったりする場を多く設定することで、主体的に学習に取り組む態度を育てるとともに、自分の考えをまとめたり、友達の意見の内容を聞きとったりする力を高める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎月のノーテレビ・ノーゲームの日、読書の日の広報活動を行うことで、家庭での時間の使い方について検討し実践するよう啓発する。  
・学校通信、保健だより、食育だよりなどを通して、健康的な生活を児童が送れるように保護者に呼びかける。「早寝・早起き・朝ごはん・読書」の取り組みについても、夏季休業期間中だけではなく、継続的に呼びかけを行う。  
・学校通信等を通して、小中連携で作成した家庭学習の手引きや家庭学習チャレンジブックの活用を啓発する。また、学級活動の時間などに家庭学習の手引きや家庭学習チャレンジブックを活用しながら、家庭学習の時間や学習の仕方について指導及び支援を行い、自ら学ぶ力を身に付けさせる。